

鉄道踏切のトラブル回避のための取り組みについて

東海エレクトロニクス株式会社（代表取締役社長：大倉 慎、所在地：愛知県名古屋市）は、社会インフラや生産設備の課題に対し、IoT を活用した課題解決のシステム提案によって社会貢献を目指し活動しています。

昨今の踏切保守・運用に関して、設備の老朽化、人為ミス、天候による故障などの様々な運用不良の要因があります。当社はこれらを社会課題と捉え、以下にその解決に向けた当社の取り組みを紹介いたします。



1. 踏切保安装置用 DC24V ニッケル水素バッテリーシステム：FDK 株式会社
鉛蓄電池からの置換えが容易、鉛蓄電池に対して低温環境における放電特性や体積容量比率が向上します。さらにリモート監視と組み合わせることにより蓄電池の点検コスト低減が可能です。<https://www.fdk.co.jp/whatsnew-j/release20221216-j.html>
2. ゼロエネルギー高感度カメラ：沖電気工業株式会社
ソーラー発電駆動により外部電源不要、後付けが可能で昼夜問わずに現場の状況確認が可能です。<https://www.oki.com/jp/press/2022/03/z21100.html>
3. 各種診断システム：東海エレクトロニクス株式会社
 - ①設備診断システム「V-Equipment」⇒動力源の故障・予兆診断管理システム
 - ②建物診断システム「V-Facility」⇒地震による建物安全性診断システム両システムは無線センシングによる、既設設備・建物に簡単設置することで状態監視とBCP（Business Continuity Plan）に必要な情報を見える化できます。

当社は、鉄道を含めた交通システムや社会インフラ全般に対して専門チームを配置し、その取り組みを強化しています。より快適で安全な社会づくりに貢献できるようさらに取り組みを進めて参ります。

製品についてのお問合せ先：東海テクノセンター株式会社 社会インフラシステム事業部
村松 誉也 TEL：052-262-7640